

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉黎明高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒 289-1115
千葉県八街市八街ほ 625
E-mail _____
Website _____
幼児児童生徒数 男子 493 名 女子 304 名 合計 797 名
幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は地域密着貢献型私立高等学校として創立 95 周年を迎えました。地域の発展と共に歩んだ歴史を背景に「地域交流」を中心にした活動や「国際理解」・「環境教育」・「防災教育」などに取り組んできました。ユネスコスクール加盟を機にこれまで各場面で展開されてきた活動を統括して持続発展可能な社会づくりのための能力開発と位置づけて学校全体で取り組んでいます。今年度の活動の主な内容を以下に報告します。

① 「地域交流」

ボランティア活動を中心としたもので、全生徒に向けて年間約 20 のボランティアを募集。全校生徒の約半数が自らの意思でボランティアに参加しました。リピーターも多く、生徒の能力開発の一場面として学校全体で推進しています。

また、学校開放講座の開催や市内小中学校との連携事業を数多く展開。それらもたらす地域交流は地域の活力や文化づくりにも役立ち、豊かな地域づくりに役立っていると考えています。

②「国際理解」

オーストラリア研修(希望者・7月実施)ではブリスベンのエバートン・パーク高校との交流会を実施。現地高校生と楽しい時間を過ごしました。また、ホームステイでは日本の文化を紹介するプログラムを各自が自由に構築。グローバル社会におけるコミュニケーションの大切さと楽しさを学びました。

③「環境教育」

ソーラーカーの製作を行い鈴鹿で開催される「ソーラーカーレース」に毎年出場している工学部のチャレンジは、クリーンエネルギーの活用から派生したいくつかの研究へと発展しています。

また、サッカー場を天然芝にする研究もスタートし、環境に関するたくさんのテーマを基にした課題研究が進められ、それぞれの生徒の取り組みは将来の成果につながる経験になると期待しています。

④「防災教育」

東日本大震災の翌年から修学旅行のプログラムとして岩手・宮城の被災地を訪ねる震災学習を組み入れています。本年度(6回目)も南三陸町を中心に復興最中の被災地を訪問。語り部の方々を囲んで、心静かに遺構を見上げる生徒の瞳に写ったものは人生の宝物になるに違いありません。

また、学校施設が避難所となった場合を想定した宿泊防災訓練(リーダー研修を兼ねる)を実施。非常時の生活体験を中心に、非常食の作り方や緊急時の心構えなど、地元の警察官や消防署員などと共に学びました。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(土日の活用 放課後)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の ESD 関連事業は学校全体で取り組む「防災教育」においては総合学習のプログラムのひとつとしてデザインされています。その他の事業は部活動の括りで本来の活動に加えた人間力向上やキャリア学習のひとつとして取り組んでいる部活動がたくさんあります。 学校が発信源となって全生徒に公募するボランティア活動については、ほとんどが長期休業日を含む休日、もしくは放課後なので、その指導には教員が分担して対応しています。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営指針の中に ESD を明記し、担当者を置くことで運営しています。理事長・校長の推進力は不可欠。良いこととはわかっているが日常的多忙のため任せっきりになる傾向があります。
--

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校が持つ力として「ESD」をもっと意識した教育活動に昇華させていかなければならないが、日常の業務で手一杯というのが現状。ESD 関連事業が「楽しい」という感覚を教職員が持つことで、学校本体の活性化にもつながるに違いないので、若い教職員を中心に啓蒙していくことが当面の課題です。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

千葉県では教育研究部会として「ESD 部会」が発足。加盟校間の情報交換などの場面では学校の枠を超えた風景が展開されています。また、千葉大学を拠点とした活動にも積極的に参加し、他校生徒との交流が生徒の喜びや力となっていくのが実感できます。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

千葉大学が発信する ESD 関連事業への参加は実に多くの成果をもたらします。ハードルが高いと思った英語でのプレゼンなどへのチャレンジは生徒の能力開発に大きな刺激を与えました。
また、地域においては本校が ESD 事業の発信源となるケースもあるのでその役割を担うことにも大きな意味があると考えています。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

千葉県内の ESD 部会を通じて特別支援学校との交流などを実施。今年度は県立桜が丘特別支援学校の生徒が本校学園祭を訪問してくれた。また、オーストラリア研修での現地交流高校とのネットワークは構築中です。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

時間の経過と共に薄れてきている東日本大震災の被災地を訪ねる修学旅行は生徒の心に大きな変化をもたらします。生徒は修学旅行を「楽しむ」ことを期待します。従って東北・被災地というキーワードはあまり歓迎されません。しかし、事前学習を踏まえて被災地を訪ねると、魂を揺さぶられて「行って良かった」と感想を漏らします。この変化は生徒の将来にどのように生きてくるのか期待せずにはいられません。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

定着している活動に加えて 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた学習プログラムを開始します。夏に開催されるソフトボール世界大会にボランティア参加することやベネズエラ選手団の大会前合宿支援(本校合宿所とグラウンドを提供)などのプランを企画・調整中。その他「自分に何ができるだろうか」をテーマにしたボランティア活動を推進していく予定です。

=====**※以下非公表**=====

●**担当者名**

職 名	教頭
氏 名	根本明彦
電 話	043-443-3221
E-mail	nemoto@reimei.ac.jp

※学校の複数の関係者が閲覧できるメールアドレス(共用メールアドレス等)をご記入ください。

●**ユネスコスクールの認定継続・解除について**

来年度のユネスコスクールの認定継続の希望の有無について、今年度から回答いただくこととしました。

来年度もユネスコスクールとして継続して活動を希望する場合は「有」に囲み印を付けてください。

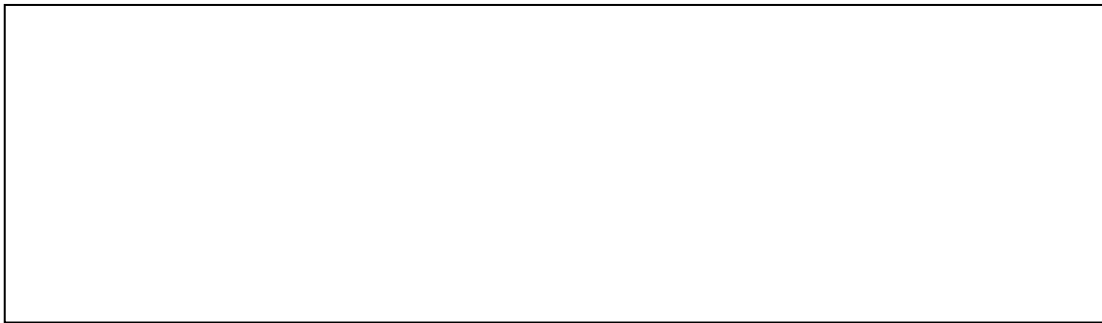
学校の状況等を踏まえ、今後ユネスコスクールの活動の継続が困難である(又は妥当でない)と学校が判断した場合、所管の教育委員会又は知事部局に事前に連絡の上、「無(認定解除を希望)」に囲み印を付けてください。また、認定解除を希望する理由についても記入ください。

なお、各学校は、ユネスコへ提出した申請書において、少なくとも2年間はユネスコスクールの活動を行う旨誓約しています。活動期間2年未満で認定解除を希望する場合は、特段の理由が必要となります。

1. ユネスコスクールの認定継続の希望

有 **無 (認定解除を希望)**

2. (上記1で「無」を選択した場合のみ) 認定解除を希望する理由



(※) 認定解除の流れ

- ① 上記認定解除希望をユネスコスクールナショナルコーディネーター（文部科学省国際統括官付。以下「NC」とする。）が受理後、NCからユネスコへ伝達。
- ② ユネスコが認定解除希望を受理後、NCを通じて当該学校へ認定解除の連絡。
- ③ 当該学校は、ユネスコ作成のユネスコスクール承認証をナショナルコーディネーターへ返却するとともに、ユネスコスクールのロゴをはじめユネスコスクールであることを示す物品等の公開・使用等を速やかに中止。

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書 留意事項

1. 全体の留意事項

- ✓ 年次報告書の様式が昨年度以前と異なりますので、御了承ください。（活動内容のよりの確な把握等のため変更しました。）
- ✓ 必ず本様式を使用ください。活動内容が分かる補足資料の提出は可能です。
- ✓ 当報告書はユネスコスクールホームページに掲載予定です。

2. 様式についての留意事項

(1) 活動の概要

- ✓ 単なる活動の羅列に留まらず、どのような理念に基づき、ユネスコスクール及びESDをどのように捉え、何を目標としたか（児童・生徒の育みたい力など）についても記入ください。
- ✓ SDGsやGAPなど国際的な枠組みを意識して活動を行った場合は具体的に記入ください。また、ユネスコが提案する国際協働プロジェクト、コンテスト、キャンペーンへの参加、もしくはそれらと関連した国内（地域）での活動を実施した場合、その実績を記入ください。また、国連の記念日（特にユネスコの定める国際デー）に関連した取組を行った場合はその実績を記入ください。

（参考）国際デー（国連広報センターHP）

http://www.unic.or.jp/activities/international_observances/days/

(2) 活動内容（丸数字は様式の番号と対応）

- ② 当該活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。
 - ✓ 例えば、学習指導要領との関連付け、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成 / 教科横断的な指導計画の立案 / アクティブラーニングの積極的な導入など、該当する内容を記入ください。
- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

- ✓ 評価対象は、活動を通じた教員や児童生徒の変容、学校全体のESD推進体制をはじめ、活動全般が対象となります。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成

- ✓ 大学、教育委員会、ESDコンソーシアム、ESD活動支援センター、各種ネットワークなどの活用状況又は活用に向けた取組について記入ください。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

- ✓ 他のユネスコスクールとの交流実績を記入ください。
- ✓ 交流実績のない学校は、将来的な交流のためのネットワーク構築に向けて取り組んだ内容を記入ください。

(3) その他

- ✓ 校種の性質上、記入が困難な項目はその旨記入の上割愛いただいても結構です。(幼稚園・保育園等を想定)
- ✓ 記入欄は適宜広げて記入いただいて構いません。